

令和8年度 大阪教育大学 体験授業 登録一覧（5月8日現在）

番号	タイトル	講師所属	氏名	内容	備考
総-1	自己開示・グループワークを通じて自分と相手を知ろう	総合教育系	牧郁子	自分を開示することによって、相手の反応を得ることができます。そして相手の反応を通じて私たちは、新たな自分の側面と出会うのです。本授業では自己開示ワークを通じて、他者から見た新たな自分の発見と相互理解を、体験的に学ぶことを目的とします。	本授業はグループワークを含みますので、それに対応可能な講義室・会場を考慮いただけますと幸いです。
総-2	道徳教育って何？	総合教育系	小林将太	「教科化」が話題となっている道徳教育について、その目的や内容、方法について概説します。	
総-3	学びを心理学で考えよう 一上手「学ぶ」には？	総合教育系	森兼隆	「何かができるようになる」「わかるようになる」といった"学ぶ"という行為には、記憶や思考、やる気など、さまざまな心の働きが関わっています。この授業では、心理学の視点から学習の仕組みや考え方を紹介しながら、「上手く学ぶこと」や「学ぶとはどういうことか」を一緒に考えていきます。	
総-4	【ワークショップ】評価実践を活かした探究レポートの改善	総合教育系	森本和寿	担当者はライティング教育研究、教育評価研究を専門としています。近年、ペーパーテストで測れる学力を超えた、より包括的な資質・能力の育成が目指され、探究学習に注目が集まっています。多くの探究学習ではレポートや論文の執筆がアウトプットとして求められますが、生徒にレポートや論文の書き方等を知識として教授しても手ごたえが得られない場合が少なくありません。レポート例（※）を参照して、これを生徒が評価するワークショップを担当者が提供することで、生徒自身に評価の鑑識眼を養う機会を与え、より優れたレポート／論文の書き手となる契機とすることを試みます。 ※ワークショップの効果を高めるため、過年度の生徒が書いたレポートを匿名化してレポートの具体例として活用させていただければと存じます。	
総-5	アカデミック・ライティングへのいざない	総合教育系	森本和寿	大学はアカデミックな文章を読み、書くところです。AIの登場で「それっぽい文章を生成すること」のコストが大幅に下がり、書くことの意義が問われています。「私たちは何のために、どのように書くのか」。これは中高生にも関係することです。たとえば、学校教育でも「探究」がキーワードになっていますが、探究した内容をどのようにレポートにしていけばよいのでしょうか。特に実験レポートのようなフォーマットが明確に定まっていない社会科学系や人文系の探究ではどうでしょうか。この授業では、レポート例を用いたワークショップを通して、大学生には（あるいは、これから大学生になる高校生には）どのようなライティング能力が求められているのかを考え、アカデミック・ライティングの入口までみなさんをいざないます。	
総-6	記憶のしくみ	総合教育系	渡邊創太	記憶とはどのようなものであるのか、学習内容を効率良く記憶するにはどうすればいいかについて、心理学の知見を元に概説します。	
総-7	点字の歴史および日本点字の五十音を読んでみよう	総合教育系	正井隆晶	点字の歴史を学ぶと共に、日本点字の法則を学び、五十音の読み挑戦する講座です。	
総-8	聴覚障がいと手話について	総合教育系	湯浅哲也	現在、手話言語条例の制定が各自自治体で広がっていること、聴覚障がい者の大切な言語・コミュニケーションとしての「手話」の重要性が認識されつつある現状にある。そこで、手話やコミュニケーションとは何かを中心に、手話及び聴覚障がい者の特徴を考えていくとともに、簡単な手話技能の習得を目指す。	
総-9	病気のある子どもへの教育とICTの活用	総合教育系	五島脩	障害や病気のある子どもは学習や生活上、さまざまな制約や制限がある。また、小学校や中学校ではない場所で学びを進めている子どもも多く、障害や病気のある子どもたちに対してどのような教育活動が行われているのか概説する。	
総-10	生涯学習時代の大学入学	総合教育系	出相泰裕	今や社会に出る前に社会人として必要な知識を習得して社会に出ることは不可能となっています。また卒業後就職しても、社会の急速な変容に伴い、同一の職にとどまらなくなり、学び直して自分のキャリアをリセットする必要性に迫られる場面も今後ますます多くなっていきます。そういった社会環境の中で、学生はどういった意識で大学に入学すべきか？大学生活で身につけるべき資質は何か？教育社会学、キャリア教育、生涯学習論などの視点をを織り交ぜながら、お話をしていきます。	
総-11	子どもの貧困と教育格差	総合教育系	高橋味央	子ども期の貧困経験と教育格差の関連について説明し、学校や地域、対人援助職による支援について考えます。	
総-12	教師の仕事	総合教育系	南野起一	教師の仕事を具体的に考えながら、教職の特質について理解する。	
総-13	子どもの成長に立ち会える喜び	総合教育系	池上英明	教員になるために必要な力、授業で大切にすること等をグループワークやミニ授業を体験してもらうことを通じて考え、教員になるモチベーションを高めてもらうものです。	1時間30分の模擬授業になります。
総-14	子どもの学習意欲を高める授業づくりとは	総合教育系	四辻伸吾	教員になりたいという思いを持ってもらうことを想定し、子どもの学習意欲を高める授業づくりとはどのようなものかについて授業の中で考えていく。	
総-15	学級経営の方法ー子どもたちの不安を減らしやる気にさせるファンリテーション技法ー	総合教育系	水野治久	学級づくりの基本は安全安心な雰囲気を作成することです。安全安心な学級雰囲気は、いじめ予防にもなりますし、学習も進みます。この授業では、講義と様々なワークを通して、学級経営の手法を体験していきます。	
多-1	楽しく英語を発音しよう「English アイウエオ」日本語ネイティブのための「英語発音講座」	多文化教育系	小林翔	現在、英語教育の世界ではWorld Englishes（世界の諸英語）という表現があります。しかし、アフリカの英語、中東の英語も、英語音声のポイントを押さえた上での様々な発音上の特徴を持つ世界の諸英語です。では、日本人英語(日本語に影響された英語発音)とは？英語音声のポイントとは？ノンネイティブのための必要最低限の発音項目リスト「リング・フランカ・コア」を知り、意識して習得しなければならないL,R,F,Vなどの子音の発音方法を理解し、日本語を最大限活用して楽しく英語の発音練習をします。世界の英語の時代においても外せない音声面の中心となる要素を知り、案に通じる非母語話者的な英語を目指しましょう。	

番号	タイトル	講師所属	氏名	内容	備考
多-2	「エドテック」technologyを活用した英語授業の可能性	多文化教育系	小林翔	英語学習のさまざまな研究においては、日本の文化的背景や環境、個人の特性などに応じた効果的な方法論が示されていますが、そうした個に応じた教育や協働学習を学校で展開していく上では、デジタル教材がキーになりそうです。この授業では、日本人の英語学習に関する近年の研究内容を解説した上で、それらの知見をベースに取り組みされている大学の英語教育の最新の実践を紹介します。	
多-3	多様性尊重と社会的包摂の教育論	多文化教育系	荻田直子	本学の科目「ダイバーシティと教育」の内容をもとに、多様な背景をもつ子どもとの関りや、人権を尊重した教育のあり方について解説し、参加者と一緒に考えます。	
多-4	絵本から学ぶ「読むこと」を楽しむ観点	多文化教育系	藤川和也	絵本には読者を引きつける様々な工夫があります。作品を読みながら、その工夫を体感し、「読むこと」の楽しさについて一緒に考えていきましょう。	
多-5	不思議な漢字：ゼロから始まる中国語	多文化教育系	王林鋒	漢字クイズを通じて中国語を学ぶ；「意外に中国語をたくさん知っているかも」と体験させる。	
多-6	日本語の力で世界のことばを学ぼう	多文化教育系	王林鋒	母語の日本語で培われるメタ言語能力を生かして英語以外の複数の外国語を学べる。	
多-7	中国の社会・教育事情	多文化教育系	王林鋒	激変している中国の事情を紹介したり議論したりする。	
多-8	グローバル時代の教育	多文化教育系	王林鋒	この授業を通じて、グローバルな視点を持つリーダーとしての素養を身につけ、実践的なスキルを向上させることを目指します。具体的には、国際社会の動向や教育改革について学び、学校教育で役立つグローバルプログラムを考えます。	
多-9	文学教育入門：物語の読みの手がかりとその機能	多文化教育系	住田勝	小学校物語教材を用いて、物語を読むときに子どもたちが手がかりにしている表現や構造をあぶり出し、その機能について示します。	
多-10	文学教材の教材研究入門	多文化教育系	住田勝	小学校や中学校の教科書で出会ってきた文学教材を、国語教師として読み解き、文学の授業の中で取り扱っていくときに必要になる「教材分析」の方法のごく一部を、文学の授業を受けている高校生の皆さんと共に共有したいと思います。	
多-11	英語の派生名詞と複合名詞	多文化教育系	寺田寛	大谷翔平選手が投げる魔球は、sweeperとよばれています。ピッチャーの投げる球がストライクゾーンをさっと横切って進むことをsweepという動詞で表しますが、そのsweepからできた派生名詞がsweeperです。sweeperがsweepから派生していることがわかっているだけで、単語の意味が分かるようになります。この講義ではそのような派生名詞について、複合名詞とともに、日本語で解説します。	
多-12	英語の可算名詞と不可算名詞	多文化教育系	寺田寛	I ate a banana this morning.というときには不定冠詞のaが可算名詞bananaの前に現れます。I ate banana this morning.ではbananaが不可算名詞なので、この場合には不定冠詞が現れません。これらのバナナの意味はどう違うのでしょうか。可算名詞と不可算名詞の違いについては学校で学ぶ機会がありません。この講義でこれらの名詞の違いを日本語で解説します。	
多-13	発音のコツ～これだけで英語らしく聞こえる	多文化教育系	箱崎雄子	日本人の英語は、英語圏の人の英語と何が違うのでしょうか？どうすれば英語らしく聞こえるのでしょうか？答えは、英語独特のスピード感、リズムやイントネーションといった「ブロンディ感覚」の習得にあります。講義では、少し工夫するだけでグッと英語らしく聞こえる「コツ」を伝授します。	
多-14	外国語理解の（とりあえず）2つのカギ	多文化教育系	橋本健一	「英語力を伸ばす」という「話す力・書く力」にフォーカスが当たることが多いですが、言葉によるコミュニケーションでは「読む力・聞く力」もまた重要です。この模擬授業では、外国語を柔軟に理解できる（読める・聞ける）ようになるために必要なことのうち「語彙認知の自動化」と「動詞の文構造情報への習熟」を取り上げて、有効なトレーニング方法について検討します。	プロジェクターを使える環境だとありがたいです。
多-15	現代における郷土教育の意義	多文化教育系	飯島敏文	郷土に対する愛情や直接的経験を生かした教育の意義を考えます。	
多-16	直接的経験と間接的経験	多文化教育系	飯島敏文	間接的にしか経験できない多くのことを学習するために、直接的経験を通した学習がもつ特徴を考察します。	
多-17	当事者意識を育てる社会科授業	多文化教育系	飯島敏文	子どもたちがよそごととして捉えているさまざまな社会事象に対して、当事者意識をもって認識してもらうことの重要性和手がかりを考察します。	
多-18	自由について考える	多文化教育系	倉本香	自由に決められることと決められないこと、その違いはどこにあるのでしょうか。また、そもそも私たちは自分の行為について自由に決められることができるのでしょうか。このようなことについて哲学・倫理的に考えてみたいと思います。	
多-19	ドイツ語のすすめ	多文化教育系	赤木登代	簡単なドイツ語レッスンとドイツ事情。	
多-20	文学作品の豊かさを読むための視点	多文化教育系	石橋紀俊	日本の近現代文学作品を具体的に取り上げながら、多様な読み方の一端を解説します。	
多-21	19世紀・20世紀のフランス絵画史	多文化教育系	井上直子	19世紀から20世紀のフランスの絵画の歴史を概観し、新古典主義からシュルレアリスムまで、具体的に様々な作品を見ていく。	
多-22	フランスの論述教育―「自分」とつながるために―	多文化教育系	井上直子	フランスの教育は、「あなたはと思う？」「なぜそう思ったの？」ということを問われることから始まります。それゆえ、フランス人は行動する際、他人に合わせることもより自分はどう思うのかを基盤に置きます。こうした教育を紹介し、自分の「本心」とつながるとはどういうことか、ということを考えます。	
多-23	ヨーロッパフランスの窓―	多文化教育系	井上直子	異文化理解を促進するため、フランスの社会、教育、文化について紹介する。	1時間30分の模擬授業になります。

番号	タイトル	講師所属	氏名	内容	備考
多-25	ことばとコミュニケーション：発話理解のメカニズム	多文化教育系	小山哲春	「コーヒーが入りました」と言われると、「コーヒー」が豆や粉末ではなく、ドリップされてすぐに飲める状態であることがわかります。また「コーヒーを入れた」という事実だけでなく「一緒に飲みましょう」というお誘いの意図があることもわかります。最新のAIは、言葉の意味を「確率的」に予測することはできますが、コーヒーの状態やお誘いの意図といった言葉の裏側を「察する」ことはできません。ではなぜ、人間同士では言葉の裏側の意味が通じるのでしょうか。この講義では、「発話意図の推論」という観点から、普段何気なく行っている言語コミュニケーション成立のメカニズムを考えます。	
多-26	方言と日本語教育の最前線	多文化教育系	榎引祐希子	日本語教育で教える日本語は、「共通語」だけではありません。実は、方言を学びたい日本語学習者は意外といます。それは、なぜか。そして、私たちは、そんな日本語学習者の希望にどう応じればよいのか。方言と日本語教育の最前線をお話します。	
多-27	外国語としての日本語	多文化教育系	榎引祐希子	外国語としての日本語をめぐる社会状況や日本語教育の基本的な考え方・方法などについて紹介します。	
多-28	グローバルとローカルな視点から大阪弁を捉え直す	多文化教育系	榎引祐希子	日本語教育における大阪弁の位置づけや最新の方言研究で浮き彫りになった大阪弁の新たな一面を紹介します。	
多-29	日本語教育の中の方言ー方言を外国人に教えることについて考えるー	多文化教育系	榎引祐希子	日本語教育における方言（地域語）教育の課題や取り組み事例についてお話します。	
多-30	日本語学研究Ⅱ	多文化教育系	榎引祐希子	日本語の方言をテーマに、歴史、文化、教育の観点から解説します。	
多-31	デジタル・アーカイブを使ってあたらしい歴史の授業を考えよう	多文化教育系	井上岳彦	デジタル社会の進行に伴い、オンラインで歴史資料にアクセスできるようになってきました。さまざまな消失の危機を乗り越えてきた史料の現物そのものを直接見て触れる機会があれば、もちろんそれはとても心に響く瞬間ですが、はるか遠く離れたところにもデジタル化された史料が万人の前に公開される新たな時代が来つつあります。この授業では、そうしたデジタル・アーカイブやデジタル・ライブラリーを利用して、新しい歴史授業のありかたを共に考えましょう。	
多-32	日本語で世界と繋がる！ー日本語教師の仕事ー	多文化教育系	辻本桜子	近年、在留外国人が増え、日本語教師の仕事にも注目が高まってきています。この授業では、地域の日本語教室や日本語学校、大学、オンラインなど、多様な日本語教師の活躍の場と仕事内容を紹介します。	
健-1	衛生手洗いで感染を予防しよう	健康安全教育系	橋弥あかね	通過菌の完全除去を目的としている衛生手洗いを体験しながら、日常の感染予防対策について皆で考えます。	
健-2	バイタルサイン測定をしよう	健康安全教育系	橋弥あかね	バイタルサインとは「生命徴候」、すなわち人間が生きている状態を示す指標のことです。主要なバイタルサインは、脈拍、血圧、呼吸、体温になります。授業では、血圧計や聴診器を用いてバイタルサイン測定を実施し、その結果を通して、健康状態チェックを体験していただきます。	
健-3	食品や調理、おいしさに関わること	健康安全教育系	井奥加奈	家庭科での調理・食物領域と理科の化学領域（身近な生活の化学：食品化学）に関して	
健-4	消費者市民社会ってどんな社会？	健康安全教育系	大本久美子	法律に示されている消費者市民社会の定義を説明し、どのような社会づくりがめざされているのかを知ったのち、受講者のディスカッションによって消費者市民社会のイメージを共有します。	
健-5	「家族とは何かを考える」「KODOMOって一体なに？」	健康安全教育系	小崎恭弘	「家族とは何かを考える」家族の定義をアニメの家族像から考えます。 「KODOMOって一体なに？」子どもとはどのようなものか、言葉などから考えます。	
健-6	羊毛を知る	健康安全教育系	山田由佳子	羊毛を使ったフェルト作りを通して羊毛の性質を学ぶ。具体的には、直径1～2cmのフェルトボールの作成とそれを使ったマスコット作り等を行い、羊毛がフェルト化により収縮することについての理解を深める。	
健-7	住まいの安全・建物の安全	健康安全教育系	碓田智子	ふだんの生活の中で見ることがあってもよく知らない、あるいは気づいていない住まいの安全・建物の安全のしくみについて解説します。	
健-8	知って得する 住まいとまちのミニ知識	健康安全教育系	碓田智子	住まいやまちについての知識は、引っ越し、家を借りるとき、災害時など、何かが起こったときなどに必要になります。この模擬授業では、住まいのまちについてのミニ知識をクイズ形式で確認します。	
健-9	消費者市民になるために	健康安全教育系	鈴木真由子	期待される消費者市民の役割や求められる資質・能力などについて伝える。国内の動向だけでなく、海外の情報なども紹介します。	
理-1	情報教育を中心に教えることについて考えよう	理数情報教育系	向田識弘	“学校の先生”という仕事にはどのような魅力があるのでしょうか。例えば、教える方法には唯一の正解はありません。様々な子供たちや教育環境、また社会の変化によって変わる教育と変わらない教育があります。その中でも変わる教育である「ICTを活用した教育」について、これからの未来を想像しながら、これからの教育のあるべき姿を考えてみましょう。	
理-2	身の回りにある情報通信ネットワークを深く知ろう	理数情報教育系	尾崎拓郎	世の中の通信方法はますます多様化しています。みなさんの身近にある情報通信ネットワークの中でも、Wi-Fi通信等、インターネットに接続するために欠かせない通信の仕組みを知り、今だからこそ身につけておくべきセキュリティの対策について、演習を通じた講義を行います。	
理-12	高校生のための等周問題	理数情報教育系	岡安頌	「同じ周長で最大の領域を囲む曲線を決定する」という古典的な幾何学の問題を話題を中心に、数学のジョークを交えながら、高校までの数学と大学からの数学の違いについてまでわかりやすく解説します。中学数学（因数分解や三平方の定理）程度の知識で十分に理解できる内容です。	
理-13	異常気象と地球温暖化ーデジタル立体地球儀で見る私たちの惑星ー	理数情報教育系	吉本直弘	近年、豪雨、干ばつ、熱波、寒波などの異常気象とそれに伴う自然災害が世界で多発しています。これらは地球温暖化によって引き起こされているのでしょうか。地球温暖化のしくみを学び、私たちの惑星の未来について考えます。	
理-14	台風や大雨による災害から身を守るために	理数情報教育系	吉本直弘	経験したことのない大雨によって発生する気象災害から自分や家族の身を守るために、情報を活用してどのように行動すれば良いのかについてワークショップ（体験型部門）を通して考えます。	

番号	タイトル	講師所属	氏名	内容	備考
理-15	共有結合って何だろう ～どうして化学を学ぶことが必要な？～	理数情報教育系	種田将嗣	学校ではたくさんのお話を学びますが、それを学ぶと将来どのようなことに役立つのかということ、教える立場の先生は知っていません。化学で共有結合というものを学びますが、これを学ぶことが何の役に立つのか。その一例を、簡単な模擬実験を交えつつ解説します。物質の色、光の三原色などに興味がある方にお勧めです。	
理-16	星の一生	理数情報教育系	松本柱	星座を作る星（恒星）は有限の過去に誕生し、寿命もあります。星はどのようにして生まれるのか、寿命の長さは、星は死ぬとどうなるかなど、星の一生について解説します。また星は様々な元素を合成する工場であり、地球上の生命体を構成する元素もかつて星の内部で作られました。宇宙において星が存在する意味を考察します。	
理-17	宇宙の階層構造	理数情報教育系	松本柱	天文学には様々な天体が登場しますが、それらが宇宙空間の中でどのような位置づけにあるのか、宇宙の構造や天体の距離感について概説します。その結果、宇宙における地球の位置づけも理解できます。	
理-18	ブラックホールの世界	理数情報教育系	松本柱	「ブラックホール」ほど広く一般に普及している科学用語は珍しいと思われず、一旦その内側へ入ると光すら出てこられなくなる領域を持つ暗黒天体です。一般相対性理論から予言されて以来、物理学や天文学の研究対象となっており、たとえば2020年のノーベル物理学賞はブラックホールの研究に対して与えられました。私の普段の研究対象にもブラックホール天体は含まれています。そんなブラックホールについて、その研究の歴史から最新の話題までを概観します。	
理-19	宇宙観の変遷の天文学史	理数情報教育系	松本柱	かつては地球が世界（宇宙）の中心であると素朴に考えられていましたが、宇宙の観測による天文学の進展と我々の理解の変遷は、地球を特別な地位から遠ざけてゆく宇宙観の歴史でした。どのような変遷を経て現在我々が知る宇宙の構造がわかってきたかについて概説します。	
理-20	最新宇宙論	理数情報教育系	松本柱	この宇宙は永遠不変なのでしょうか。20世紀にもたらされた物理学や天文学の偉大な知見により、宇宙は有限の過去に始まり、現在も変化を続けていることが明らかになりました。宇宙の現在までの歴史（過去）、およびこれから宇宙はどのように考えられるのか（未来）について概説します。	
理-21	「客星」の正体	理数情報教育系	松本柱	星の世界は人間の時間感覚に照らすと不変のようにも思えますが、古典文献にはしばしば夜間に突然現れる星「客星」の記録が残されています。それらが現在の理解ではどのような天体だったのか概説します。また過去の天体現象の記録が現代の天文学において活用される例を紹介します。	
理-23	惑星物質科学入門－隕石を見てみよう－	理数情報教育系	平川尚毅	私たちの太陽系はいかに進化して現在の姿になったのか、実験や探査、シミュレーションなど様々な立場からの解明が試みられています。隕石などの地球外物質を分析するというアプローチもその一つです。地球上の火成岩を調べればマグマの性質や冷え方がわかるように、また堆積岩を調べれば海底の堆積環境がわかるように、隕石を調べることでその故郷の天体の環境や、さらには小天体が形成される前の初期太陽系の歴史を遡ることもできるはずというわけです。では一体どのようにして隕石から情報を読み解くことができるのか。本講義ではその解説とともに、実習を通して太陽系のスケールや隕石の中身についても知ってもらいたいと思います。	
理-24	シャーロック・ホームズが理科室にいたので驚いた・・・	理数情報教育系	串田一雅	ホームズの推理は、理科にも通用するのか・・・推理の力で理科を見通しよく理解しよう！！	
理-25	体験しよう！かがく実験	理数情報教育系	久保登公二	化学薬品を使った「あぶり出し」と「簡易温度計」を体験し、金属イオンにおける化学反応や金属イオンを含む化合物（金属錯体）の構造と色の関係について学びます。	
理-26	水と環境を考える	理数情報教育系	広谷博史	水には、自然を育み、生命を維持し、社会生活を成立させるという複合的な働きがあることを学ぶと同時に、水の研究には理科の分野でいうと物理、化学、生物、地学の各分野が関連してくること、さらには社会科学的な視点も必要であることを学ぶ。	
理-27	香料から液晶テレビまで ～鏡像異性体と旋光・そして未来のテレビ～	理数情報教育系	堀一繁	高校「化学」の学習内容「光学活性化合物」や「芳香族化合物」が、現代社会を支えるハイテク素材に使われていることについて解説し、高校化学の学習内容が、現代科学・技術に密接に繋がっていることを理解してもらおう。	
理-28	論理と数理パズル -パズルを通して数学を見る-	理数情報教育系	町頭義朗	数理パズルや一見マジックに思える遊びを通して、数学的帰納法、背理法、合同式などの数学に不可欠な論理を学びます。	
理-29	今さら考えるインターネットのしくみ	理数情報教育系	三島和宏	もはや社会にとってなくてはならない存在となったインターネット。インターネットは世界のすみずみでちょっとした問題があっても、全体としては何事もないかのように動く。そのインターネットがどう動いているのか、そこにあるものや強さは何か、などを今改めて考えてみたいと思います。	
理-30	教育AI・データサイエンス入門	理数情報教育系	高見享佑	生成AIの登場で大きく教育も変わろうとしています。本授業では、最先端の教育AI・データサイエンスについての研究等を紹介します。	
理-31	教育データアントレプレナーシップ入門：リーンキャンパスで探究活動をイノベーションに変換しよう	理数情報教育系	中村航平	教育データアントレプレナーシップ入門：リーンキャンパスで探究活動をイノベーションに変換しよう この講座は、高校での探究活動で見つけたテーマやアイデアを、社会に役立つ「イノベーション」へと育てていく力を養うための入門講座です。キーワードは、「アントレプレナーシップ（起業家精神）」と「リーンキャンパス」。アントレプレナーシップとは、会社をつくることに限らず、身のまわりの課題に気づき、自ら考え、行動し、解決に向けて動く力のことです。そしてイノベーションとは、自分の考えた仮説を、持続可能なかたちで社会に還元する仕組みをつくること。つまり、どのように価値を生み出し、届けるかを考える視点も重要になります。講座では、そうした考え方を学びながら、「リーンキャンパス」という1枚のシートを使って、自分のアイデアを整理・分析し、より現実的で社会につながる形へと深めていきます。授業は、ワークショップ形式で進行し、アイデアを言語化して仲間と共有しながらブラッシュアップしていく実践的な内容です。探究活動のまとめや発表で終わらせず、「このアイデアを、もっと社会で活かすにはどうすればいいか？」という視点で、次のステージへと進めていきます。“好き”や“疑問”から始まった探究を、“未来につながる価値あるアイデア”に育てる。その第一歩を、この講座で一緒に踏み出してみよう。	

番号	タイトル	講師所属	氏名	内容	備考
理-32	アントレプレナーシップ概論	理数情報教育系	中村航平	アントレプレナーシップは様々な定義されることがありますが、変化や困難に対して積極的に行動し、新たな価値を創出する姿勢や、チャンスを活かす思考法を指します。イメージとしては探究活動が個人の興味関心に基づいて価値が創造されるのに対して、アントレプレナーシップは他者（広くは社会）のために価値創造を行います。本授業では、文部科学省のアントレコンプをベースに、アントレプレナーシップを「仮説を立て、行動から得たデータを検証・省察することで、新たな価値を創出していく姿勢」と定義し、リーンスタートアップの考え方を中心に、社会課題を解決するための基礎力の習得を目指します。高校向けには、大学の講義で行う内容を座学中心ではなく、実際に体で体験してもらうためにアクティビティを中心とした活動を実施します。	
理-33	「一億総AI・データ活用時代に必要なスキルとは」 「（普通科教育における）AIとデータサイエンス」 「（普通科教育における）プログラミング的思考」 「イノベティブシンキング」	理数情報教育系	安松健	専門教育ではなく、普通科を対象とした、AIとは何か、データサイエンスとは何か、プログラミング的思考とは何か、について、講義、およびグループワークにて実施します。	
理-34	AIとデータサイエンス、プログラミング思考、イノベティブシンキング（クリエイティブ思考、デザイン思考）、クリティカルシンキング	理数情報教育系	安松健	高校文系数学までの知識で（プログラミング言語の知識や統計解析の知識がなくとも受講できるような）、AIやデータサイエンスやプログラミング思考の授業を行う。授業中も、プログラミング言語や数式などは使用せずに、文系学生にも、AIやデータサイエンスの重要性、または活用方法を紹介する。 また、いわゆる企業研修で行うようなイノベティブシンキング（クリエイティブ思考、デザイン思考）や、クリティカルシンキングの授業も可能。	
理-35	人の能力を拡張する道具との関わり方	理数情報教育系	山本良太	当たり前のことですが、人は様々な道具を用いて生活しています。これは裏を返せば、道具がなければ今の生活を維持することができないということでもあります。その意味で、道具は人の能力を高めてくれるものです。様々なテクノロジーが開発され、新しい道具が生み出されていますが、それらはわたしたちのどのような能力を高めるのでしょうか。この問いに正解はありません。模擬授業を通じて皆さんとともに答えを考えてみたいと思います。	
理-36	南極は宇宙の練習場	理数情報教育系	西川泰弘	人が行けない場所で、どうやって観測するのか？ 本授業では、講師が南極観測と惑星探査の両方に実際に関わる立場から、その答えを探ります。南極のような極限環境で培われた技術は、月や火星の探査にも応用されています。地震観測を手がかりに、「その場に行かなくても内部を知る」科学の方法を紹介し、地球の果てから宇宙へとつながる研究の最前線に触れます。	
理-37	Moon to Mars; 火星を目指して、まず月へ	理数情報教育系	西川泰弘	人類はかつて月面を歩きましたが、現在は再び月を目指すArtemis計画が進められ、半世紀ぶりに人類が月の近くまで到達しています。この計画は「Moon to Mars」と呼ばれ、月での活動を通して将来の火星探査へとつながっています。本授業では、「なぜいま再び月に行くのか？」という問いから出発し、月と火星を結ぶ探査の意味について考えます。地震観測を手がかりに惑星内部を読み解き、太陽系の起源に迫る最前線の科学を紹介します。	
理-38	南極から見える地球の環境	理数情報教育系	西川泰弘	南極は巨大な氷の貯蔵庫であり、気温が変化しにくい安定した環境です。こうした環境にある南極でも、近年は気温や氷の変化が見え始めています。本講座では、講師が内陸で行ったアイスコア掘削や氷河観測の実験や最新の研究をもとに、南極の自然と観測を紹介し、南極で起きている変化が地球全体にどのようにつながるのかを考えます。	
表-1	音楽を“ゆる～く”哲学しよう【高校生バージョン】	表現活動教育系	吉野秀幸	自分は音楽が好きで、演奏したり聴いたりして日々音楽に触れている。そうすると心がウキウキし、どことなく豊かな気持ちになる。しばしば大きな感動を覚えることもある。いったい音楽の正体とは何だろう。それを知りたいのだが、そうかと言って専門書を繙くのも少々ハードルが高い気がする。でもそれを探ってみたい、是非突き止めてみたい。このような思いに応えるために、音楽について語っている哲学者や思想家の考えをごくわかりやすく、かみ砕いて紹介します。それらを通して、一人ひとりながながしに腑に落ちる言葉を見つけてほしいと思います。	
表-2	音楽の正体とは何か	表現活動教育系	吉野秀幸	音楽とは楽譜でしょうか、それとも作品でしょうか。いえ、違います。楽譜や作品を前提にしたとん、とても難しく、遠い存在になってしまいますね。むしろ音楽とは、私たちの身近に発生し、その場に居合わせる人々に共有されるものなのです。本授業では、音楽が「いま」「ここで」生まれる現場を体験することを通して、音楽の正体を探っていききたいと思います。	
表-3	彫刻体験：「粘土と格闘しよう！」	表現活動教育系	加藤可奈衛	普段なかなか体験できないようなスケールの量の粘土を使った、少し本格的な彫刻制作を通して、からだ全体を使った彫刻制作の楽しさを体験する。また、型取りなどの実際を紹介します。	
表-4	彫刻体験：「石と格闘しよう！」	表現活動教育系	加藤可奈衛	普段なかなか体験できないようなスケールの大きな素材・工具などを使った、少し本格的な彫刻制作を通して、からだ全体を使った彫刻制作の楽しさを体験します。	
表-5	彫刻体験：「鉄板で鏡を作ろう！或いは、鉄と格闘しよう！」	表現活動教育系	加藤可奈衛	素材としての鉄を知り、錆びた鉄板をびかびかになるまで（顔が映るまで）磨いてみる。また、簡単な工具などを使った少し本格的な鉄の彫刻制作を通し彫刻制作の楽しさを体験します。	
表-6	コラボレーションアートに挑戦しよう！	表現活動教育系	加藤可奈衛	現代アートの一端に触れていただきながら、コラボレーション・アートに挑戦します。普段なげなく使っているお皿を使った作品など、五感全体を使ったアートの楽しさを体験します。	
表-7	エコなアートに挑戦しよう！	表現活動教育系	加藤可奈衛	現代アートの一端に触れていただきながら、環境を意識した素材などを使ってエコアートに挑戦します。環境に優しい素材の可能性と一緒に体験します。	
表-8	上代用特有の仮名の線の書き方について	表現活動教育系	出野文莉	甲骨文の成り立ちや内容の説明を行う。成り立ちの理解できた象形文字を筆で書いてみる。古代人の追体験を行って、古代人の考えていたもの感じていたものに思いをはせながら、筆で自分の思いを表現してみます。	
表-9	芸術書道の授業「かな文字を使って俳句を書いてみよう」	表現活動教育系	瀬川賢一	基本的なかな文字の線の書き方、文字の造形の取り方を学び、俳句を土のように書くこと美しく書けるかを考え作品制作を行います。	

番号	タイトル	講師所属	氏名	内容	備考
表-12	芸術書道「仮名文字にふれよう」	表現活動教育系	瀬川賢一	仮名文字を書く初心者生徒に対し、筆記姿勢・用具の使い方から、平仮名で身近な言葉を書いて仮名文字の書き方についてふれます。	
表-13	書道概論Ⅰ・Ⅱ	表現活動教育系	瀬川賢一	小中学校国語科書写に関する実技指導	
表-14	仮名書法研究Ⅰ、仮名書法研究Ⅱ	表現活動教育系	瀬川賢一	高等学校芸術科書道に関する実技指導	
表-15	日本の伝統文化Ⅱ	表現活動教育系	瀬川賢一	留学生を対象とした書写書道に関しての実技指導	
表-16	粘土を使った立体表現。陶芸作品にチャレンジ	表現活動教育系	谷村さくら	粘土は美術教育においてよく使われる素材です。切ったりちぎったりくっつけたりと加工が比較的簡単で、力の弱い子どもの手でも活動しやすいのが特徴です。模擬授業では、自分の体を使った器づくり、後日焼成してお渡しします。つくった後使う楽しみがあるのは工芸作品の一つの魅力です。	
表-17	水分補給と熱中症	表現活動教育系	鉄口宗弘	身体にとっての水分の役割と重要性、夏場の熱中症やその予防等についてを講義します。	
表-18	運動生理学の講義	表現活動教育系	鉄口宗弘	本講義では、それぞれが興味を持つ運動時の生理的変動等を大学で実際に行っている授業を切り取り講義します。例えば、筋収縮のメカニズムと様式、筋力トレーニングの基礎、酸素摂取量と無酸素性作業閾値、呼吸・循環器の応答、随意運動と反射、等々。	
表-19	ボールを使った運動遊び	表現活動教育系	井上功一	小学校低学年から行うボールを使った運動遊びを子供の技術習得の観点から実際に行いながら学びます。	
表-21	学校において体育授業は必要なのか？	表現活動教育系	住本純	学校教育の中に体育科が存在しています。なぜ存在しているのか。本当に必要なのか。どのような意義があるのだろうか。受講生の被教育体験をもとに体育科の意義や価値について、学習を深めていきたい。	
表-22	器械運動の運動学習について	表現活動教育系	森井亮和	体育・スポーツの現場では、様々な種目の「動きかた(技)」を身につけることが目指されます。なかでも器械運動は数多くの技が存在し、たくさんの成功体験を味わうことができる魅力的な種目です。しかし、実際はどうでしょうか。もしかすると「怖くて体が動かない、、」「頭では理解できているけど、、できない」といったように、思った通りに身体が動いてくれず、苦手意識を持っている人も多いと思います。「できる」を生み出すためにはどうすればよいのか、器械運動を例として取り上げながら、体育・スポーツにおける運動学習について議論し、その方法について理解を深めていきたいと思えます。	
表-23	歌唱指導とアンサンブル	表現活動教育系	浦田恵子	基礎的な歌唱のトレーニングや、わらべうたを使ったアンサンブル等を行い、声の可能性について体験していただきます。	
表-24	スポーツ科学って何だろう？	表現活動教育系	生田泰志	スポーツ科学とは何かを考え、基礎的な知識を伝えた上で、昨今のスポーツ科学の具体例について紹介します。	
表-25	正しい立位姿勢の作り方～ストレッチングやトレーニング指導	表現活動教育系	橋本恒	簡単な授業内容ですが、正しい姿勢を定義、正しい姿勢の利点などを説明し、正しい姿勢を作るトレーニングを実践します。	
表-26	身体は語る～表現と競技の融合～	表現活動教育系	吉見英里	身体表現を勝敗や技術を超えて、人とつながる言語として発見し、スポーツとダンスの境界について解説します。	